

# 国土交通省 準天頂衛星システムの利活用の促進に向けた平成31年度当初予算案

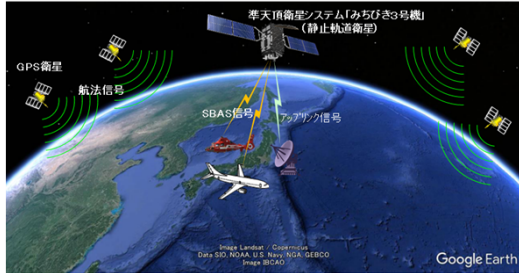
国土交通省	平成30年度当初予算額	平成31年度当初予算額	対前年度増減
宇宙開発利用関係予算	5,299百万円	5,514百万円	2,147百万円増(4.1%増)
うち準天頂衛星システム利活用促進の関係予算	1,155百万円	1,603百万円	448百万円増(38.8%増)

資料  
1—8

## ①準天頂衛星を利用した航空用の衛星航法システム(SBAS)による測位補強サービスの提供

【当初予算額:平成30年度292百万円⇒平成31年度151百万円】

○航空用の衛星航法システムによる測位補強サービスの提供(平成32年度開始)に向けて、地上設備を整備

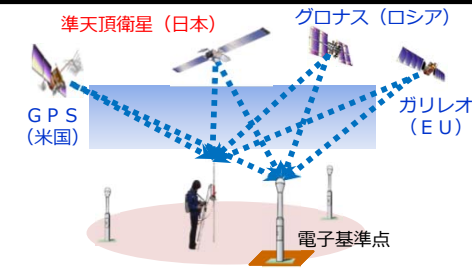


準天頂衛星を活用した航空用の衛星航法システム

## ②人工衛星の測量分野への利活用(測位分野)

【当初予算額:平成30年度745百万円⇒平成31年度931百万円】

- 電子基準点網の運用により測量の基準となる情報を提供
- アジア地域における電子基準点網等の測位インフラ整備・高度化や高精度測位技術、位置情報サービス等の国際展開を実施

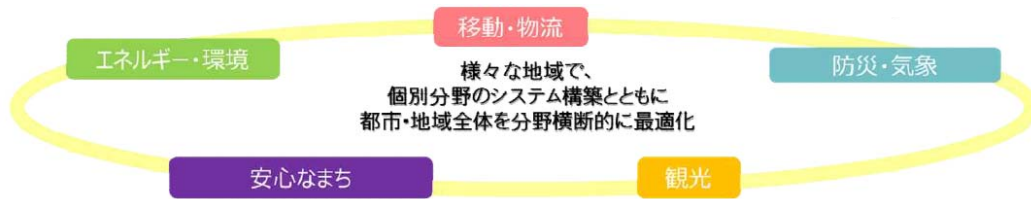


測量分野への利活用(電子基準点網の運用)

## ③スマートシティ実証調査

【当初予算額:平成31年度112百万円(新規)】

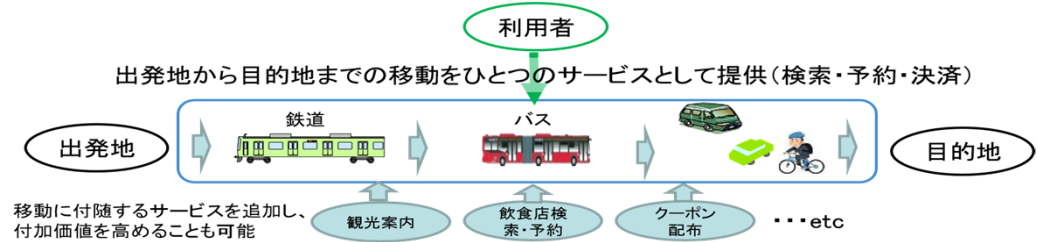
- スマートシティを推進するため、AI、IoT等の新技術や高精度測位技術を活用した地図・地形データ等様々な官民データをまちづくりに取り入れたモデル事業を実施



## ④新モビリティサービス推進事業

【当初予算額:平成31年度306百万円(新規)】

- MaaSなどの新たなモビリティサービスによる交通サービスの様々な問題の解決に向けて、多様な地域において多様な主体が参加する実証実験を支援



## ⑤ICTを活用した歩行者移動支援の普及促進に向けた取組の推進

【当初予算額:平成30年度96百万円⇒平成31年度83百万円】

- 高齢者や訪日外国人等がストレスを感じることなく、屋内外を自由に活動できるユニバーサル社会を構築するため、高精度測位技術等を活用した歩行者移動支援の実証を実施



屋内外シームレス誘導等のサービスの見える化実証

## ⑥高精度測位技術を活用した船舶の自動離着岸システムに関する技術開発

【平成30年度21百万円⇒平成31年度21百万円】

- 高精度測位技術を活用した自動離着岸技術を確立するため、信頼性の高い船舶位置情報の取得を可能とするための技術開発と自動操船技術とのインターフェースの検討を実施

